

血液透析用カテーテル留置を受けられる患者様へ

秋田大学医学部 泌尿器科

通常血液透析が緊急で必要になった場合、手の血管に特別な手術を行っていないため、手の静脈で血液透析を行うことは難しい状況です。このような場合、太い静脈（大腿静脈、内頸静脈、鎖骨下静脈など）に太さ約 3-4mm の管を挿入し、このカテーテルを使用して血液透析をおこないます。

【血液透析カテーテル留置法】

主に鼠径部まれに鎖骨下、鎖骨上のいずれかよりカテーテル(細い管)を留置するため、同部位の皮膚に局所麻酔薬を注射した後、穿刺針を刺して静脈へ到達します。この針の中にガイドワイヤーを通し、ガイドワイヤーにそってカテーテルを挿入します。

【血液透析用カテーテル留置の合併症】

カテーテル留置の際、細心の注意をはらい安全に努めますが、まれに以下のような合併症が起こります。

1. 麻酔薬による血圧が急激に下がることがあります。(以前に抜歯などでそのようなエピソードがあった方は必ずお話しください。)
2. 注射針、ガイドワイヤー、カテーテルにより周囲の臓器(血管、神経、肺など)を損傷することがあります。
3. カテーテル感染による発熱・敗血症、血栓性静脈炎などがあります。

このような合併症が生じた場合には、薬剤の投与、輸血、追加の処置、手術を含めて最善の処置をおこなうことによりほぼ全例で回復可能ですが、極めてまれに生命に関わる場合があります。

年 月 日

上記について説明を行いました。

氏名

上記について説明を受けました。

氏名